

【学校長コラム】心を寄せるということ...

年が明けて、あっという間に一か月が過ぎようとしています。みなさま、いかがおすごしでしょうか？

1月1日に発生した能登半島地震、1月2日に起こった羽田空港での航空機事故と、年明け早々大きな出来事に心が痛みます。みなさまもきっと、どこかで気持ちが落ち着かない毎日を過ごしているのではないのでしょうか。被災された方々、またその関係者のみなさまには心からお見舞いを申し上げますとともに、今後、影響が最小限に収まり、少しでも早く復興が進むことを願っています。今、この時も震災への対応、また復旧・復興に向けて多くの方々が大変な思いで過ごされています。その心に寄り添いながら、私たちに何ができるかを考え、行動していきたいと考えています。

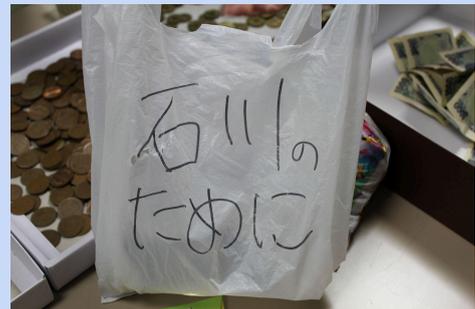
そんな中、本校児童は、考え、行動で示してくれました。運営福祉委員会を中心に代表委員会で話し合い、募金活動を自主的に行いました。十分な周知期間もなく、1日だけの募金活動にも関わらず、**64,017円**もの募金が集まりました。集計作業をする中で、

「石川ファイト」

「石川のために」

「ほんの気持ちです」

こんなメッセージが書かれた袋もたくさん見つけることができ、胸が熱くなりました。



「心を寄せるということ」

簡単そうで、難しいことです。募金という行為も尊いものですが、その活動の中で考え、相手を思う児童が、だいたい小学校には、たくさんいることを心からうれしく感じました。保護者のみなさまの導きにも感謝いたします。ありがとうございました。



日々平穏を祈りながらも、無事に明日がくることが当たり前ではないんだということを心に留めて、日々何気なく過ぎていく時間、勉強や運動ができることに感謝し、自分を活かし、他者を思いやる一人一人に成長して欲しいと強思います。

